

# 田万川地域の夢プラン

～海の幸やら山の幸 人の情けが通う町～



平成31年3月

田万川地域夢プラン策定委員会



## 目 次

1	地域の概況	1
2	地域でのこれまでの主な取組	2
3	地域の将来像と夢プランの実現	3
4	ワークショップにおける、その他意見やアイデア	7
5	夢プラン策定委員名簿	8

## 1 地域の概況

### (1) 人口・高齢化の推移（平成 30 年 4 月 1 日現在）

- ・人口 2,670 人（江崎地区 1,711 人 小川地区 959 人）
- ・65 歳以上人口割合 49.85%
- ・集落数 54

### (2) 自然・地理

田万川地域は、萩市の最北東端、萩市の中心市街地から 40～50 km の島根県との県境に位置し、漁業集落を中心とする海岸部の江崎地区と農村集落で形成される山間部の小川地区で成り立っている。

天然の良港といわれる江崎湾は昔から漁港として栄えており、海が縁となりつくられた西堂寺六角堂、志士の墓など、人と物が行きかた名残が現在に伝えられている。田万川河川沿いは、肥沃な大地で、米や野菜の農地が広がっている。

山々に囲まれた小川地区は、火山の噴火によって生まれた平山台、上の原台地、原山台の 3 つの台地があり、果樹園や田畑が広がっている。

### (3) 産業

田万川地域の国道 191 号線沿いは、「道の駅ゆとりパークたまがわ」をはじめ、スーパー、コンビニ、ホームセンター、飲食店などの商業施設が並び、地域の経済エリアとなっている。

平成 28 年に 23 年ぶりに再開された定置網事業を核として、漁協・県・市・漁業者・住民等が一体となって「江崎の浜活性化未来プロジェクト事業」を推進し、江崎地区の漁業活性化を図っている。それに伴い、平成 29 年に道の駅ゆとりパークたまがわの全面リニューアルを実施し、鮮魚や地域の特産品・加工品の販売施設の機能強化を行っている。

田万川地域には 7 つの集落営農法人がある。そのうち 6 法人が隣接する弥富地区の 1 営農法人と併せて萩アグリ（株）を運営し、農業の効率的な経営管理と低コスト化、小規模法人では困難であった新事業への取り組みなどを進めている。また、県内有数の果樹産地である小川地区の平山台果樹団地においては、果樹を活用した新たな特産品や加工品づくりの取組を強化し、6 次産業化を推進し、地域ブランド力の強化を図っている。



定置網朝市

## 2 地域でのこれまでの主な取組

住民主体の地域づくりを目指すため、平成 19 年に「田万川ふるさとづくり協議会」が設立され、「たまがわに元気をとりもどそう」をスローガンに、地域づくり部会、環境整備・安心安全部会、健康福祉部会、青少年育成部会の 4 つの専門部会が、福祉、産業、社会教育を担う各種コミュニティ活動団体との連携を強化し、地域イベントの実施、見守り活動など、住民が主体となった地域コミュニティ活動を推進している。

平成 28 年度からは住民主体サービスの一貫として、江崎・小川ささえ隊による高齢者生活支援サービス車の運行を開始し、高齢者の見守り、サロン活動を実施するなど新たな共助の仕組み作りに努めている。



道の駅まつり

主な取組	実施主体等
道の駅まつり	道の駅まつり実行委員会
たまがわ夏まつり	たまがわ夏まつり実行委員会
小川地区夏まつり	田万川ふるさとづくり協議会
平山台利きりんご世界選手権大会	平山台利きりんご選手権大会実行委員会
江崎手作り市場	江崎手作り市場実行委員会
みのりの広場（高齢者サロン、出張美容室、出張販売）	小川ささえ隊
大人の部活（高齢者お出かけサロン）	江崎ささえ隊
グリーンツーリズム（農業体験、農家民泊）	グリーンツーリズム協議会他
トリムマラソン大会	田万川ふるさとづくり協議会
盆踊り大会	田万川ふるさとづくり協議会
どろおりんびっく	田万川ふるさとづくり協議会
ひとり暮らし高齢者宅年末訪問	田万川ふるさとづくり協議会
こいのぼり掲揚（道の駅親水護岸周辺）	田万川ふるさとづくり協議会
ごっぼう焼き	田万川ふるさとづくり協議会

### 3 地域の将来像と夢プランの実現（夢プランの展開図）

地域の将来像、目標、実現に向けた行程をワークショップにおいて検討し、夢プラン実現に向けての行動計画（夢プランの展開図）として次のとおり作成した。

#### （1）道の駅ゆとりパークたまがわを核とした地域の賑わい創出について

《地域の将来像》 道の駅ゆとりパークたまがわを中心に田万川地域に人を呼び込めるようなイベント・企画を実施し、地域の交流人口を増やしたい。

《目標》 田万川地域の核施設である「道の駅ゆとりパークたまがわ」を拠点として、魅力的な情報発信、地域イベントなど、新たな仕掛けづくりを行い、地域の賑わいと交流人口の増加を目指す。

#### （2）市民農園の開設について

《地域の将来像》 世代間交流・教育・農業体験を通じて次世代の子どもたちに農作物を作る楽しさ、大切さを知ってもらい、将来的に地域で農業の担い手となる若者・子どもを育てたい。

《目標》 地域の市民農園を企画し、地域の子どもやその保護者が参加できる農園を整備して、農業に興味を持ってもらう地域住民を増やす。田万川地域と地域外の人を結びつけ、関係人口の創出と増加を目指す。

#### （3）空き家を活用した地域の交流施設について

《地域の将来像》 異なる機能の小さな施設を複数創出し、地域全体でサービスを提供する仕組みを創る。

《目標》 空き家を活用し、宿泊・食事・交流などの異なる機能をもった施設を複数作り、これらをネットワーク化して地域全体でサービスを提供する体制を構築し、地域外からの集客を図り、地域活性化を目指す。



## 田万川地域 夢プランの展開図

### (1) 道の駅ゆとりパークたまがわを核とした地域の賑わい創出について

地域の将来像	目標・イメージ・効果・役割		
<p>道の駅ゆとりパークたまがわを中心に田万川地域に人を呼び込めるようなイベント・企画を実施し、地域の交流人口を増やしたい</p>	<p>◆<b>目標</b> 田万川地域の核施設である「道の駅ゆとりパークたまがわ」を拠点として、魅力的な情報発信、地域イベントなど、新たな仕掛けづくりを行い、地域の賑わいと交流人口の増加を目指す。 【数値目標】 ・道の駅来客数 2016年度 158,364人 ⇒ 2023年度 200,000人 ・田万川温泉来客数 2016年度 67,790人 ⇒ 2023年度 85,000人</p> <p>◆<b>イメージ</b> ・現在行っている道の駅や地域内のイベント等に新たな企画を追加し、既存交流施設に地域内と近隣の周辺都市部からの交流人口を増加させる。 ・田万川地域発のヒット商品を開発。 ・イベントの担い手は有償ボランティアとなるような収益企画を実施。 ・道の駅や田万川地域の観光、地域資源の魅力を最大限に伝える情報発信と人材育成。</p> <p>◆<b>効果</b> ・道の駅を中心に地域内各施設の経済効果が期待できる。 ・地域のブランドづくりの取組が促進できる。 ・イベント等の創出により地域の賑わいを生み出すことができる。</p> <p>◆<b>役割</b> ・実施団体 プロジェクトチーム ・住 民 イベント参画 ・行 政 プロジェクトチームの支援</p>		
<b>目標に向けた取組</b>			
<b>1～2年目</b>	<b>3～4年目</b>	<b>5年目</b>	
<p><b>1 プロジェクトチームの立ち上げ</b> ・プロジェクトチームで実証イベントの企画立案 ・イベント支援員の募集</p> <p><b>2 道の駅を拠点とした実証イベント・企画の実施</b> (1) 産品耕作者等による道の駅一日駅長の実施 ・地域内の産品耕作者による商品宣伝力の強化 (2) 年間を通じた道の駅や周辺のイベントの実施 ・名物となる大鍋パエリア企画 ・六角弁当等の復活販売 ・キャンプ場の隣接海岸でのシーカヤック体験 ・温泉施設でのカラオケ大会等の集客事業 ・手作り市場の継続開催 ・道の駅に隣接する萩アグリ農場と連携した企画</p> <p><b>3 地域産品を生かした商品の開発</b> ・田万川地域産の付加価値のある新たなヒット商品の開発</p> <p><b>4 地域団体と他地域の団体の交流企画の実施</b> ・フラメンコ団体や神楽団体等による他地域との団体交流を実施。 ・地域イベントに合わせた合同出演企画等の実施。</p> <p><b>5 旅行商品の開発</b> ・小川地区の花畑、果樹園、道の駅、ジオサイト等地域の観光資源の調査。 ・萩市東部地域を一体的に周遊することを視野に、隣接する須佐地域の観光ルートに田万川地域の観光資源を行程に組み込むことを検討。</p>	<p><b>1 実証イベント・事業の検証と展開</b> ・実施した企画イベントの集客状況、内容についての検証と展開。</p> <p><b>2 須佐地域との協働</b> ・隣接する須佐地域と協働し、萩市ジオパーク活動の促進を図るとともに、萩市東部地域の魅力を一体的に発信。</p> <p><b>3 情報発信力の強化</b> ・情報発信者の人材育成。 ・観光農園、観光スポット、体験プログラム等が一目でわかる魅力的リーフレットの作成。</p>	<p><b>1 イベント・事業の定着化</b> ・事業の検証をしながら内容の見直しと事業定着化を図る。</p>	

## 田万川地域 夢プランの展開図

### (2) 市民農園の開設について

地域の将来像	目標・イメージ・効果・役割		
<p>世代間交流、教育、農業体験を通じて次世代の子どもたちに農作物を作る楽しさ、大切さを知ってもらい、将来的に地域で農業の担い手となる若者・子どもを育てたい</p>	<p>◆<b>目標</b>                      地域の市民農園を企画し、地域の子どもやその保護者が参加できる農園を整備して、農業に興味を持ってもらう地域住民を増やす。                      田万川地域と地域外の人を結びつけ、関係人口の創出と増加を目指す。  <b>【数値目標】</b>                      ・2023年度の市民農園の会員数 100名</p> <p>◆<b>イメージ</b>                      ・地域の休耕地を活用し、市民農園「わいわい農園（仮称）」を運営。                      ・活用可能な個人所有の農地から実証実験をスタートし、農園会員の輪を広げていきながら、将来的に地域内の各所で展開していく。                      ・活動の初期は、活動内容を知ってもらい、賛同者を増やすこと。また、情報発信が中心。                      ・実際に作物が出来るようになれば、道の駅や地域のお店で提供する。また、市民農園でのイベント開催による交流人口増加を通じて地域活性化を図る。                      ・生業で農業をしないが農業に興味のある地域住民や近隣住民、またファミリー層をターゲットに事業を計画する。</p> <p>◆<b>効果</b>                      ・子どもが農業に関わり、地域の人と接することで、食育や地域学習の一旦も担う効果が期待できる。                      ・世代間交流が促進される。                      ・農地の保全が図られる。</p> <p>◆<b>役割</b>                      ・運営者 夢プラン委員他有志メンバーによる任意組織立ち上げ                      ・住民 農園参画者                      ・行政 事業立ち上げ段階の支援</p>		
目標に向けた取組			
1～2年目	3～4年目	5年目	
<p><b>1 農園場所の調査・選定</b>                      ・地域内の活用可能な農地の調査</p> <p><b>2 運営団体の立ち上げ</b>                      ・有志メンバーによる組織の立ち上げと協力者の確保                      ・農園指導員の確保</p> <p><b>3 実証事業の実施</b>                      ・運営体制と事業計画の作成、会員金額等の設定                      ・作付け品目の検討                      ・地域内での農園会員募集                      ・地域外会員となる顧客の調査と地域外出身者へのPR</p>	<p><b>1 事業の検証</b>                      ・農園会員からの意見聴取と事業改善。</p> <p><b>2 事業の展開</b>                      ・検証を受けて、本格的な事業展開に向けた事業計画を策定。</p> <p>（1）新規会員の募集                      ・地域内での新規会員の増加を図るとともに、地域出身者へのPR強化を図る。                      ・新たな農園の調査及び調整</p> <p>（2）収益事業への展開                      ・作付け品目の再検討、生産物を販売、収穫物を活用する仕組みを検討し、農園の収益事業への展開を模索する。</p> <p>（3）定期イベントの開催                      ・市民農園での定期イベントの開催による交流人口増加、農園作物のファンの獲得とこれらのファンをつなぎ留めておく手法を検討。</p>	<p><b>1 運営の自立</b>                      ・これまでの事業を検証し、顧客のニーズに対応する作付け品目を検討。</p> <p><b>2 新たな担い手の確保</b>                      ・運営を継承する担い手の募集。</p>	



## 田万川地域 夢プランの展開図

### (3) 空き家を活用した地域の交流施設について

地域の将来像	目標・イメージ・効果・役割		
<p>異なる機能の小さな施設を複数創出し、地域全体でサービスを提供する仕組みを創る</p>	<p>◆<b>目標</b>                      空き家を活用し、宿泊・食事・交流などの異なる機能をもった小さな施設を複数作り、これらをネットワーク化して地域全体でサービスを提供する体制を構築し、地域外からの集客を図り、地域活性化を目指す。  <b>【数値目標】</b>                      2023年度の空き家利活用数 3軒</p> <p>◆<b>イメージ</b>                      ・複数の空き家を活用し、子どもの日替わり塾・高齢者のカメラ教室・地域のお願いごと伝言版など、地域住民が集まる低額プログラムを開催し、住民が交流する場を創る。                      ・複数の空き家を活用し、農家レストラン・カフェ・宿泊など、地域外の人が過ごせる環境をつくり、収益を獲得する。</p> <p>◆<b>効果</b>                      ・住民が交流する場を創ることで、地域活性化に対する意識の高揚が期待できる。また、高齢者の身近な困りごとを住民間で解消するきっかけとなる。                      ・地域外の人とふれあう機会を創ることで、新たな事業の発展が期待できる。                      ・空き家を利用することにより、遊休施設の再利用促進と地域景観の保全が図られる。</p> <p>◆<b>役割</b>                      ・実施団体 プロジェクトチーム                      ・住民 プログラムの開催と空き家の提供                      ・行政 事業立ち上げ段階の支援、空き家改修費の支援</p>		
<b>目標に向けた取組</b>			
<b>1～2年目</b>	<b>3～4年目</b>	<b>5年目</b>	
<p><b>1 空き家の調査</b>                      ・地域の方や萩市空き家情報バンクの情報などをもとに使用できる空き家の調査と、その物件の規模・状況などを把握。</p> <p><b>2 空き家活用プラン策定と賛同者の確保</b>                      ・空き家の状況、立地条件、地域の意見などから、小さな施設をネットワーク化するための移手段の確保も含め空き家の活用プランを公表し賛同者を募る。</p> <p><b>3 実証実験の実施</b>                      (1) <b>地域住民の交流機能の創出</b>                      ・公民館・保健センターなどの公共施設や、改修不用な空き家を活用し、地域住民の交流機能を創出する実証実験を実施。</p> <p>(2) <b>地域外の人を呼び込む機能の創出</b>                      ・道の駅ゆとりパークたまがわの調理室などを活用し、イベントの開催と連動して農家レストランやカフェの実証実験を実施。</p> <p><b>4 取組事業の決定</b>                      ・実証実験の結果をもとに、取り組む事業、事業主体を決定。</p>	<p><b>1 事業開始</b>                      ・マスメディアを活用した情報発信の他、SNS等での情報拡散や、プログラム、イベント等の開催により集客と利益の獲得に努める。</p> <p><b>2 検証</b>                      ・利用者から意見聴取(改善点の模索)                      ・事業の修正                      ・他事業と掛け合わせた運営の検討</p> <p><b>3 プランの進展</b>                      ・他の空き家を活用し、地域住民や地域外からのお客さんのニーズに沿い、かつ利益の獲得につながる事業を展開。</p>	<p><b>1 運営の自立とプランの進展</b>                      ・地域全体の集客力を向上させ、個々の施設の運営の安定化させる。</p>	

#### 4 ワークショップにおける、その他意見やアイデア

- ・地域住民が地元の道の駅を利用しきれていないと感じる。
- ・空港に近いことが田万川地域の利点で、これを最大限いかしたい。
- ・集落の高齢者（特に高齢女性の一人暮らし）の見守り、困りごとや草刈りなどを「ささえ隊」で行っている。このことを都会にいる人たちに紹介することが必要ではないだろうか。
- ・田舎の家庭的な雰囲気の中で人生について相談し、食事を提供する民泊業の提供は考えられないだろうか。
- ・民泊体験に来た生徒へ気持ちを伝える土産物、記念品などを作ることができないだろうか。
- ・将来的にドローンで荷物の宅配サービスができないだろうか。地域でドローンを扱える人材を育成してはどうだろうか。
- ・田万川地域は携帯電話の電波状況が悪い地域が多い。スマートフォンを使った情報発信の時代なので、情報インフラの環境改善をお願いしたい。
- ・田万川にも神楽団体があるが、神楽は外国人観光客にうけるのではないだろうか。
- ・春は平山台の花、6月は田万川河川のホタルなど田万川地域には季節ごとの魅力的な観光資源がある。
- ・山口県が推進している「サイクル県やまぐち」の最北端地として島根県～山口県の海岸線を結ぶ自転車愛好家を呼び込むイベントはできないだろうか。
- ・農業の担い手不足の課題解決の一手段として、すでに外国人技能実習生の受け入れを行っている地域内の企業のノウハウをいかし、外国の人材を受け入れることはできないだろうか。

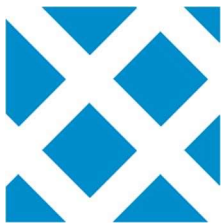
5 田万川地域夢プラン策定委員 (五十音順)

安達 千仁	石橋 満人	井上 ひろみ	上杉 晋也
梅地 真佐巳	岡安 哲哉	品川 民雄	島田 剛
清水 裕子	水津 光恵	末益 哲成	須ヶ牟田智美
隅野 由美	高津 聡	中本 修造	野稻 泰二
藤井 友絵	松岡 洋祐	峯村 隆	吉田 美苗



【～私の宝・私の挑戦～】





田万川地域夢プラン策定委員会

萩市 地域政策部地域づくり推進課